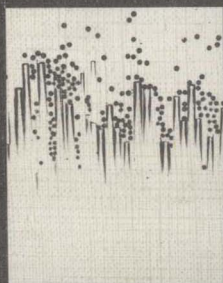


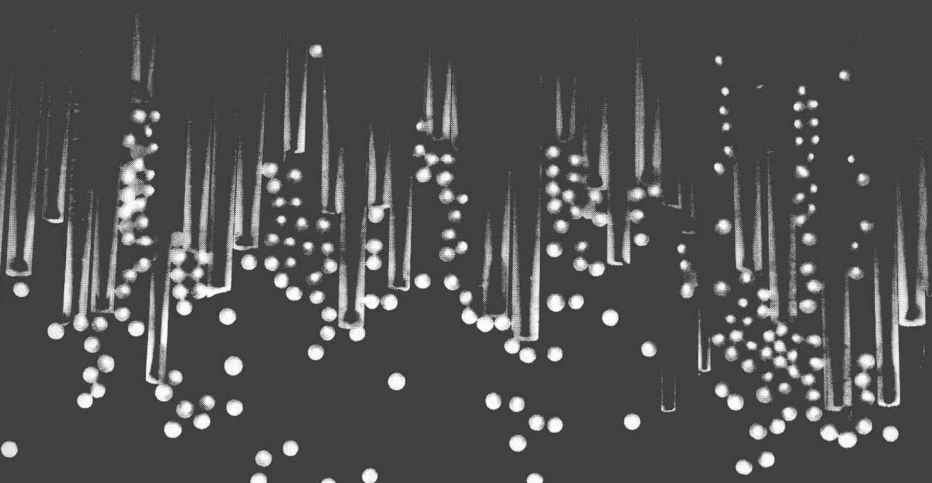
秋元松代 ■ アディオス号の



新潮劇場

イオス号の歌

秋元松代



書下ろし新潮劇場

あきもと まつ よ  
秋 元 松 代

アディオス<sup>ごう</sup>号<sup>うた</sup>の歌

昭和50年 5 月 5 日印刷／昭和50年 5 月10日発行

発行者■佐藤亮一／発行所■株式会社新潮社

〒162 東京都新宿区矢来町71／振替東京4-808

印刷■株式会社金羊社／製本■株式会社大進堂

©1975, Matuyo Akimoto, Printed in Japan

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛お送り  
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

定価 780 円



ア  
デ  
ィ  
オ  
ス  
号  
の  
歌



登場人物

千々岩たま

” 亜里州

相馬美根

横山四郎

貝塚洋一

長次郎

うめ

きく

ふじ



時と場所

現代・五月初旬ごろ・九州天草





## 第一幕

ヨット（アディオス号）

その(1)

順風を受けて帆走しているアディオス号。（二〇フィートぐらいの小型艇）

ヨットは天草のある入江へ向って行く。波は高くない。デッキでセーリングしている横山四郎（二三歳）——ある不安で緊張している。しかしそれと懸命にたたかっている。前方に近づく入江や周辺、沖の方

にも注意深い視線をくばっている。

.....

.....

メイン・セール（主帆）が張りを失ってパタンパタンと鳴る。風が弱まったらしい。四郎は狭いデッキを、舵棒に、引綱に、忙しく取りついて動きつづける。

.....

船室から、ハッチをあげて相馬美根（二三歳）が顔をみせる。発熱と疲労で喘いでいる。しかし極度に気を張りつめてもいるのだ。眠りからふと醒めて、航行の感じの変っているのにとび起きたらしい。周囲の見馴れない、また全く予期しない風景をみて驚く。

美根 四郎さん——。四郎さんてば——。

四郎（操舵に懸命である）……。

美根　ここアどこ——陸おかがみえるがね。——どうしたがんだ。

四郎　君は寝てるんだ。出てきちゃだめだてば。

美根　なじこんなどこへ——。

四郎　黙って寝ててば。船を着けるとこ探さにやならんがア。

美根　なじ——。そんな馬鹿なこと——。

美根、船室からデッキへあがってくる。

美根　こんなとこ走って……あたしが眠ってる間に、コース変えたの、ええ？

四郎　陸へあがるんだよ。君は病氣なんだぜ、医者を探すんだ。

美根　馬鹿なことしないでよ。病氣じゃないよ、あたしは。ちょっと風邪ひいて、熱があるだけだてば。

四郎　ちがう。ありったけのクロマイ飲んでしもうたのに、熱がさがらんだろうが。肺炎起こしたらどうなるがんだ。もう起こしてるか知れんがの。

美根　へっちゃらだって言うてるがに。こんなに元気じゃないか。

四郎　少しはおれの言うこときくもんだ。ここで陸へあがらにや、このさきは東支那海のと真ん中へ突っこむんだぜ。医者<sup>イサナ</sup>の居る島なんかないんだよ。あつたとしてもさ、上陸できないわけがあるだべ。

美根　だすけ言うたるが、あたしが死んだら、海へ放りこんだらええが。二人で、約束したろ、どっちかが死んだら、そうしようって。それで、一人になつても、さきへ進もうって。

四郎　向うを見ろ！　ほら、ちっこい村がみえてきたがんだ。医者を探すんだ。あの村におらんだつたら、町から連れてきてやるすかえの。君は神経ばっかり昂奮して、元気みたいなこと言うてるだけだがア。もう放つとけないよ。頼むから、おれの言う通りにしてくれよ。

美根　あたしは、嫌<sup>いや</sup>んだ。せっかくここまできて陸へあがるなんて、絶対やんだてば。——ね！　針路変更！　南へ走ろうよ。

四郎　静かにしてくれんかのう。ここは危険なんだぜ。こんなとこ、初めて来た

んだし、海図なんか持っていないんだ。豪儀危ないんだすけ——。どこに岩礁があるか分らんだろがア。——畜生！ 風が足らんの！ エンジン着けてくりやえがったのう。（セールを操作しながら）——こんげなとこでおシヤカになつてたまるかよ！

美根 意地ぐされ——。（涙がにじんでくる）いまさら陸へあがるなんて……笑止しょうしくて……死んだ方がええがの。

四郎 やつぱり、あずましくねえ！（セールを停めて）よし！ おれ、泳いでヨット曳つばるがんの。キャビンさ入ってれっちゃ。風に当たたらいかんてば。

美根 ここにおる方がええの。

四郎 駄々こき！（額に手を当てて）みれ。えらい熱だんが。苦しいべ。

美根 （押しやって）平気だ。苦しくない。

四郎、船室へ降りる。

美根　せつかくここまで、乗り切ってきたっていうのに――。八年もかかって、ヨット買うて――。

四郎（船室で）なにぶつぶつ言うてるがんだ。強情っぱり！

美根　予定の変更なんだ、あたしは認めない……がまんできない……許さない。

船を出そうよ、四郎さん。

四郎（船室で）艇長はおれだぜ。命令はおれが出す。乗組員はおれに指図すんな。

病人のくせに生意気だぞ。

美根（ふらつきながら立ちあがる）艇長！　風がきたがんだ！　……追風……ほら、

吹いてきたがア。

四郎（船室で）べてん風にたまされんなや。

美根　ちがう！　ほんとの風だ！　走れるよ！　大丈夫だよ！

美根、ふらつく体に力をこめてセールの引綱をひく。舵棒をとって、  
沖の方向へ回転する操作をする。

四郎、船室からとび出してくる。海水パンツになっている。

四郎 おい！ なにしてるんだ！ やめれって！ 馬鹿なことすんな。

美根（舵棒にしがみついて）あたしだって、セーリングできるんだ。あんたよかうまいんだ。

四郎 離せてば！ 危ないからよせ！

美根 まんず、あたしだって――。

四郎 どけたら！ よさないか！

美根 邪魔せんでよ、あんたこそ！ これは二人のヨットなんだろ、あんたひとりのもんじゃないんだがん。

四郎（思わず手の力を抜く）……。

ヨットの方向が変る。風をうけて揺らぐとみると、突然船底に衝撃をうける。バリバリと壊れる物音。船体が大きく傾斜する。二人は投げ



出されたようにデッキに倒れる。船室の中の物が崩れる音。

——四郎、はね起きて、船舷から乗り出してみる。

四郎 やられた！ でっかくやられたがんだ！ 畜生！

四郎、海へとびこむ。水音。

美根、倒れたまま動かない。静かな波の音だけが聞こえる。妙に静かな一瞬がくる。

美根（ゆっくり身を起こして咳く）たいへんなことしたった——。なんか、悪いことが起きそうな気がしてたんだ。そしたらやっぱり……（はっと気を取り戻して）たいへんだ！ 四郎さん——、（船べりへ這いよって海を覗く）四郎さん——。どこにいるがんだ！ なにしてるがんだ！

四郎（水面へ浮いて）やられちゃったぞ。——（船舷へつかまって荒い息をつく）セ